

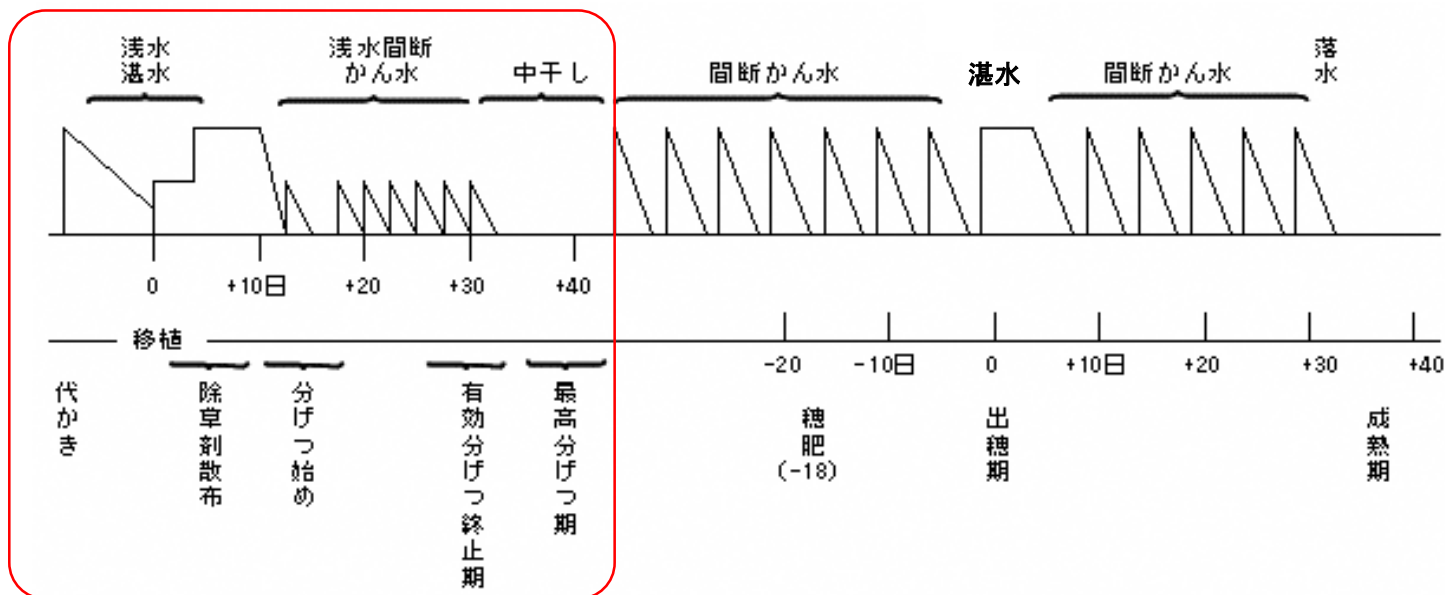
# 営農情報（水稻）

令和3年6月発行

福岡大城農業協同組合  
南筑後普及指導センター

福岡県南部では、トビイロウンカの飛来が5月10日に確認されています（福岡県病害虫防除所）。平年より非常に早いため、今後の情報に注意して下さい。

## 1 水管理（田植え～中干し）



- (1) 田植えから除草剤散布までは、活着促進のため、浅水(3 cm程度)管理を基本とします。除草剤散布時には、5 cm程度湛水し、7日間湛水状態を保ちます。
- (2) 除草剤散布後7日以降は、浅水で間断かん水を行い、分けつ20本を確保したら、速やかに中干しに入ります(田植えの1か月後が目安)。  
※特に「元気つくし」は倒伏防止のため、中干し開始が遅れないように注意します。
- (3) 中干しの程度は、小ヒビが入り、足型がつく程度(5～7日間)まで干します。

### ※麦わらすき込み田の水管理

麦わらをすき込むと、苗が活着する様子がなく葉が黄色くなったり、ほ場に入ると泡がブクブク出てドブのようなにおいがする場合があります。その場合は、田面を軽く干して、ガス抜きをします。

## 2 雑草防除（初中期一発除草剤）

農薬の使用基準に従い使用期間内に除草剤を使用します。田植えから除草剤の散布まで日があくとも雑草の生育も進むため、使用時期が遅れないよう注意します。薬剤はこよみを参考にして下さい。

## 3 ジャンボタニシ対策

ジャンボタニシは、田植直後～20日後頃に最も激しく水稻を食害します。防除を行う場合は、スクミノンを10a当たり2～4kg、ジャンボタニシの多いところを狙って散布します。

**農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!**